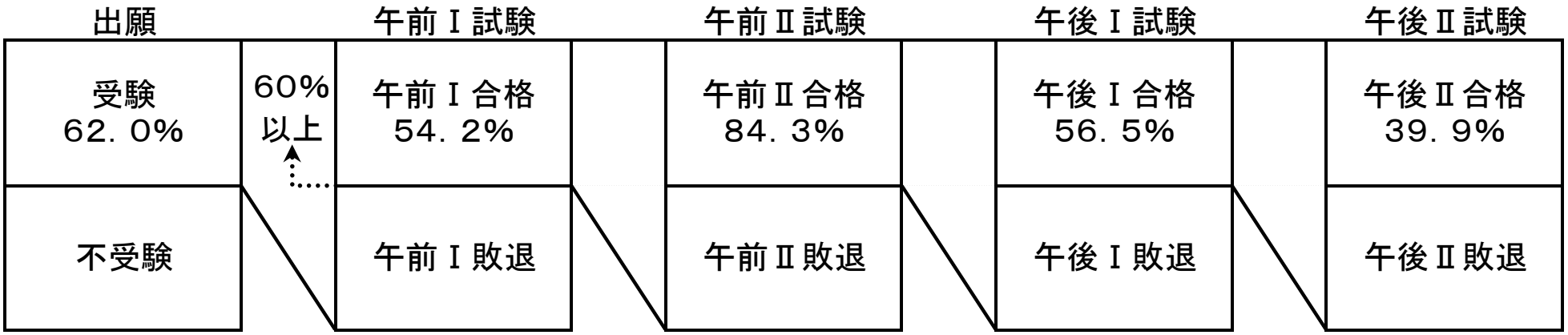
©2019 GUSHIKEN,Tohru

試験の合格率（令和2年度試験受験用）

平成30年度春季プロジェクトマネージャ試験の合格率（全受験者中，午後Ⅱ試験合格者の割合）は14.1%です。



午前Ⅱ試験については，例年通りPMBOKからの新傾向問題を中心に，プロジェクトマネジメント分野からの出題が多くを占めています。難易度については昨年度よりやや下がり，合格率が上がりました。今年度もほぼ同様の難易度が続くと考えられます。プロジェクトマネジメント分野において新しい出題が増えておりますので，従来型の問題の正解率が上がるように難易度の高い問題についても学習を進める必要があります。

午後Ⅰ試験については，平成23年度以降，必須選択問題数が減っていますが，問題量に対する解答時間は依然として短く，解答時間に余裕はありません。今後も同程度の問題量，難易度が続くと思われます。

午後Ⅱ試験について，ここ数年を通して出題傾向を分析すると，包括的な視点で複数分野にまたがる記述が必要な出題が多く，難易度は徐々に上がっています。昨年度は複数分野どころか，どの分野にも属さない「他プロジェクトの知見の活用」という汎用的な出題がありました。但し，昨年度に限って言えばテーマ自体は解り易く，落ち着いて論述すれば比較的対応しやすい内容でした。尚，平成26年度より出題数が3問から2問にかわり，論文テーマ選定の幅が狭まっています。問題量，難易度は例年通りであり，今後も同じ傾向が続くと思われます。設問ウの論述において，定型的な「評価」「改善点」だけでなく，「問題発生の根本原因」や「再発防止策」、「防止策の実施状況」等の新しい形での論述が求められる傾向がみられるため，それらの論述に対応できるよう，自分なりのまとめ方，構成等の論述スタイルを確立させておきましょう。